

かざね
四万十の風音

しんせん
森&川だより

春の地域のイベントで木工体験コーナー

四万十川びらき！春のうまいものマルシェ

「四万十川びらき」で「木工体験コーナー」大盛況

4月18日、地元の四万十市西土佐の四万十ひろばで西土佐地域の食材等を集めた「四万十川びらき&春のうまいものマルシェ」が開かれ、当センターの木工体験コーナーも大盛況となりました。

このイベントは、四万十川びらきの実行委員会主催で、同地域に「道の駅」が開業する2016年を前に、地域食材や地域商品をPRしようとして今年で三回目の企画となります。当センターには木工体験コーナーでの参加を要請されたものです。

当日は、西土佐地域の食材等約30店が出店され、会場周辺ではカヌー体験や屋形船の乗船、竹林でのタケノコ掘り体験等も行われました。

当センターの木工体験コーナーは、親御さんに連れられた幼児や小学生等が、クマ等のストラップ作りや、丸太の輪切りを楽しんだり、イベント開催中、この体験コーナーには、お客さんが途切れることなく訪れ、大盛況となりました。

天候にも恵まれ、地域との結びつきが深められた一日となりました。



木工クラフト体験中



木工体験コーナーは大盛況

滑床山開き

なめとこ

「滑床山開き」で森林教室

4月24日、足摺宇和海国立公園内にある滑床溪谷で、松野町等が主催する恒例の滑床山開きの神事が行われました。

この山開きには、地元の松野南小学校の全児童7名が目黒緑の少年隊として出席しており、毎年、神事の後に森林教室を行っています。



午後からは、松野南小学校の児童に愛媛森林管理署と合同で森林教室を行い、木の働きと間伐を行って森を健やかに育てることで環境を守る仕組みや、森の働きについて説明をしました。また、子どもの日にちなんでスギ板を使って、鯉のぼりの浮き彫りを作製しました。

今年の木工教室は、作業時間が1時間30分と短いため、あらかじめ鯉のぼり等の各パーツを当センターで作製しました。各パーツをボンドで張り合わせて着色するという単純なものとし、学年で差が出ないように工夫しました。

児童達は、鯉のぼりを思い思いの色で着色し、完成させました。

今回の取り組みが子ども達にとって、森林や木材を身近に感じることができる良い機会になってほしいと思います。



完成した五月の鯉のぼり



鯉のぼり完成、ヤッター



色とりどりの鯉のぼりを描いて

中学生の職場体験学習

西土佐中学校3年生が、ふれあいセンターの仕事を体験しました。

4月15日～4月17日の3日間にかけて、西土佐中学校の職場体験学習で、当センターに、三年生の生徒が一名やってきました。

西土佐中学校では、例年「職場体験学習」を実施しており、今回で17年目になるということです。

第46号

職場で実際に働くことで、職場の人々の仕事に打ち込む姿や仕事に対するこだわりや考え方を知ると共に、働くことの喜び、苦労や厳しさを体験し、働くことの意義を学ぶことが目的です。

そこで、一日目は、黒尊山国有林において、広葉樹の苗木50本を植栽してもらいました。二日目には、滑床山国有林の吊り尾根において、シカ食害防止ネットの設置予定箇所で、コンパスを用いて区域測量に望みました。三日目には、ノコギリ、クラフトナイフ等を使用して、木工教室の準備作業や、木工クラフトづくりを体験してもらいました。

これらの体験を通じて、両親等の仕事の大変さや苦労を知ることができ、進路についても考える有意義な機会となったと考えます。



コンパス測量中



木工クラフト製作中

高校生に森林環境教育

森林環境学習・八面山&三本杭登山体験

5月13日、高知県立四万十高校自然環境コースの一年生七名を対象に、森林環境学習と地域の山の登山を体験することを目的に八面山及び三本杭登山を実施しました。

四万十高校では毎年、屋久島での自然環境学習を行っており、その予行演習も兼ねたものでした。

当日は、季節外れの台風一過の晴天に恵まれて、登山開始となりました。

生徒はこの日を楽しみにしていたとのことで、新緑の中、新鮮な空気を吸い込んで元気よく出発しました。

登山の道中では、職員から、赤松と黒松の見分け方やミズメの樹皮が、サロンパスの臭いがすること、ブナについてなど樹木の名前や特徴を説明しました。

また、ニホンジカによるリョウブ等の樹木の剥皮被害や森林総合研究所四国支所と当センターの共同でのシカ試験地の取り組みについて説明しました。

登山開始から二時間程で三本杭に全員到着しました。

山頂では、当センターが設置したシカ防護ネットや、ボランティア等によるミヤコザサ

の移植などによって植生の回復が見られていること等を説明すると、熱心に説明を聞き、しっかりとメモを取り、学習をしていました。

下山後、生徒代表から、「今回の登山を通じ、森林についていろいろな体験や学習ができました。本日はどうもありがとうございました。」と挨拶があり、ふれあいセンターとしても、学校の要請に応えることができた、良い一日でした。



三本杭山頂（1,226m）を目指して



八面山山頂（1,165m）にて

校庭の樹木学習

5月26日、宿毛市立小筑紫小学校の五年生を対象に、森林の働きと校庭の樹木学習及び樹木名板作製について指導を行いました。

また、6月4日、土佐清水市立中浜小学校の三～六年生十四名を対象に、森林の働きと通学路の樹木学習及び樹木名板作製の指導を行いました。

最初に、私達が日常生活をする上で、大切な自然の一つである「森林の働き」について説明しました。その後、校庭に出て樹木の花や葉などを観察しながら、それぞれの名前や特徴、用途等について学習しました。



小筑紫小学校校庭の樹木学習の様子

小筑紫小学校では、ソテツは枯れそうになった時、鉄釘などを茎に刺すと蘇るという言葉から「蘇鉄」と名付けられた、ナンテンは、難を転ずるの意味から、縁起が良いので、家庭の庭や玄関にもよく植えられていること、また、ハナミズキは、北アメリカが原産で、昔アメリカに、日本からサクラを送ったお礼として、日本に来た花木として有名であること等三十種の樹木について説明しました。

中浜小学校の通学路の樹木学習では、大浜と中浜の通学路を歩いて、ナンテンの実が咳止め薬に利用されていること、ヤツデは、テングノハウチワとも言い、手のひらのような大きな葉の形が特徴であること、ナツグミの実が食べられること等、二十種の樹木について学習しました。

その後、ヒノキの輪切り材に、ポスターカラーで科名と和名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて樹名板を完成させ、各樹木に設置しました。

今後は、学習したことを基にして、季節の移り変わりによる樹木の変化等を観察してもらいたいと思います。



中浜小学校通学路の樹木学習の様子



小筑紫小学校樹木名板完成



中浜小学校樹木名板完成

年間を通じた森林環境学習

6月29日、松野町立松野西小学校の四年生二十五名を対象に、森林の働きや校庭の樹木学習と樹木名板作製について支援の要請を受け、校庭にある樹木の名前や特徴を調べて、樹木名板や樹木の立て札を製作、設置することで、季節の変化による樹木の様子を継続して観察し、樹木への感心を持たせる目的で、本年度第一回目の森林環境学習を実施しました。



松野西小学校校庭の樹木学習の様子

最初に、「四万十川森林ふれあい推進センターの活動内容について」説明をした後、下敷き「森林の大切な働き」を配布して、私達が日常生活をする上で、大切な自然の一つである森林の働きについて説明しました。

次に、校庭の樹木学習では、三十四種の樹木について学習しました。

最後に、ヒノキの樹木名板に、ポスターカラーで

科名と和名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて、樹木名板を完成させました。

そして、7月9日には、同じく、四年生に対して、第二回目の森林環境学習として木工クラフト製作を行いました。

始めに、センター職員から「木材の特徴」について、パワーポイント等を使って説明をしました。木材は軽くて丈夫なことや加工しやすいことから、いろいろな生活用品に使われていること。きちんと手入れをすれば千年以上もの耐久性のある建物もできることなど、木の良さについて説明しました。続いて、世界で一番重い木（リグナムバイタ）と世界で一番軽い木（バルサ）の重さの比較実験も行いました。

最後は、刃物や道具を使っての自由製作です。怪我しないよう、模範演技を見せながら、道具の使用方法や製作時の注意点について説明した後、児童達は、サクラ、ミズメやヒメシャラなどの木の枝を使って木工クラフトづくりに挑戦しました。

最初は慣れないノコギリやクラフトナイフ等を使っての作業に苦労していた児童達もいましたが、一つの作品が出来上がると、家族にもプレゼントしたいと、ひとりでいくつもの作品を作っていました。

また、木目や樹皮をうまく使って作品を作る児童もおり、手軽に自分のオリジナルができることで夢中で取り組み、あっという間に過ぎた三時間でした。

今回、たくさんのオリジナル作品をみんなの児童が製作したことで、木の持つぬくもりや、素材としての木材の良さについて十分に感じてもらえたのではないかと思います。

そして、二期からは、「空飛ぶ種子」や「土壌浸透実験」、そして、「炭焼き体験」や「八面山登山」の森林環境学習も引き続き開催予定です。これらの年間活動を通して、森林の大切さ、木材利用についての理解が深まればよいと思います。



松野西小学校木工クラフト製作中の様子



松野西小学校オリジナル作品完成



木工クラフト教室を開催

6月16日、宿毛市立小筑紫小学校で、五年生十四名を対象に、卓上糸のこ盤を使った木工クラフト学習を行いました。

まず、木工クラフトを始める前に、「木材の特徴」と題して、木の長所である軽くて丈夫なこと、加工しやすいこと、湿度や温度を調整すること、短所として、性質がすべて同じでないこと、シロアリ等の被害を受けやすいこと等について、パワーポイントによる説明を行いました。そして、木の重さの比較実験も併せて行いました。

あらかじめ準備した板を使用して、事前の希望に添った、木工クラフトを当センターの職員や先生の手助けも得ながら、卓上糸のこ盤を使って、真剣に切り抜き作業に取り組みました。その後、色を塗り、ボンドで接着して、作品を完成させました。



小筑紫小学校 真剣な表情で



小筑紫小学校木工クラフト完成

また、7月8日には、同じく宿毛市立小筑紫小学校一年生十一名と二年生八名を対象に、当センターが、カブトムシ、クワガタムシ、木工クラフト製作用キット一式を事前準備した材料を使った木工教室を開催しました。

先に、木工クラフトの作り方を先に説明したのち、児童達が、各キットをボンドで、板に貼り付けをして、約30分程で、カブトムシとクワガタムシが見事に完成しました。



完成したカブトムシとクワガタ



小筑紫小学校木工教室の様子



クワガタムシ・カブトムシ完成

全校生徒を対象にした木工クラフト教室を開催

7月7日、土佐清水市立中浜小学校で、全校生徒十八名を対象にした、木工クラフト教室を開催しました。

最初に、材料となる「木材の特徴」について、パワーポイント等を使って学習をしました。木材は、古くから私たち日本人の生活になくてはならない存在で、豊かな森林にめぐまれた日本では、木材を簡単に手に入れることができ、たくさんの木材を利用して「木の文化」を創ってきました。木材には優れた性質（長所）や欠点（短所）があり、木材を上手に使う工夫をして、色々な物や場所に木材を使っていることについて説明しました。

その後、日本で一番軽い木（桐）、世界で一番軽い木（バルサ）と世界で一番重たい木（リグナムバイタ）について説明し、世界で一番軽い木と重たい木の二つの重さを比較する実験を、天秤ばかりを使って行いました。実験結果、答えは1センチ角のバルサ9個と1センチ角のリグナムバイタ1個が同じ重さでしたが、ちょっとした数当てゲームにみんな歓声をあげていました。

木工クラフト教室では、二年生から三年生までは、あらかじめ当センターが、準備した板を使用して、事前の希望に添った、木工クラフトを卓上糸のこ盤で先に切り抜いたものを、児童に色塗りとボンドでの貼り付けをしてもらいました。

また、四～六年生は、サクラ、ミズメ、ヒメシャラなどの木の枝を使って、児童が自由製作に挑戦しました。ノコギリやクラフトナイフ、剪定バサミなどを使い、小枝等を加工して、慣れない手工具に悪戦苦闘しながらも、オリジナル作品（カブトムシ、クマ、シカ、エンピツ等）を完成させました。

これからも、児童には、木材に親しみ、利用してもらいたいと思います。





中浜小学校木工クラフト教室の様子



中浜小学校、クワガタ虫完成

シカ捕獲



今年度も「囲いワナ」によるシカの捕獲を実施予定

当センターでは、今年度も「囲いワナ」によるシカの捕獲を愛媛森林管理署の滑床山、四万十森林管理署管内の黒尊山において、8月上旬頃から実施しています。

| | |
|---------------------------------|---|
| 林野庁 四国森林管理局 |  |
| 四万十川森林ふれあい推進センター | |
| 高知県四万十市西土佐西ヶ方586番地2 | |
| 電話0880-31-6030 FAX 0880-31-6031 | |